



月例山行

9月30日 高嶺山 1599m

(たかねやま)メンバー：水野(L)・織田・市橋・伴野・柴橋・水谷・中村・畑中



▲道の駅平谷を予定より 30 分程度遅めの出発。淡々と続くつづら折りの登山道に苦勞するも、時折吹く爽やかな秋風に癒されつつ 1 つ目のピーク長者峰 (1,574m) に到着。360° のパノラマを堪能し、本日の目的地の高嶺山 (1,599m) に向かい、予定時間の 12 時に到着。上空を気持ち良さそうに舞うパラグライダーを



アケボノ草

見ながら昼食休憩をとり、14 時 40 分道の駅平谷駐車場に全員無事下山。今回 8 名と久々に大人数参加の山行となり、賑やかな山行が楽しめた。ちなみに崩落により通行止めとなっていた長者峰までの車道も現在は開通している様子でした。  
——記録：水野



## 熊に襲われ 1 か月の大けが——上高地

▲9月27日、河童橋から 7~800m 上流の梓川右岸を一人で歩いていた韓国人の男性 39 歳がクマに襲われ頭を引っかかれて 全治 1 か月の大けがをした。これを受けて環境省は小梨平のキャンプ場を利用禁止、明神池までの梓川右岸遊歩道を閉鎖した。

三重県内の山では昨年 86 人が遭難し、12 人が死亡した。死者数は 1975 年からの統計史上、最悪。新型コロナ禍が明け、登山を楽しむ人が増える中、道に迷ったり滑落したりするケースが後を絶たないという。

「登山は 3 回、山に登る」。四日市西署の

山岳指導員、小古真也 (ここま まこと) で、今年も 7 月に御在所岳で 1 人が亡くなった。巡査部長は話す。地図を見て計画を立て、実際に登った後にも振り返る。登山は誰でも気軽に楽しめるだけに、初めに同行した際、十分に準備をする。署は、同県内有数の登山者数を誇る御在所岳を抱える。昨年死亡者のうち 7 人が管内

秋の行楽シーズンは先日、署の登山に楽しめるだけに、訓練に同行した際、小

## 秋の山行!

▲秋山はいい。穂高では 9 月にナナカマドが色づく。風は爽やか、低山の木々も色づき、葉を落とし明るくなる。一方で、危うさも秘めている。スズメバチが飛び交う。蜂は黒いものへ寄ってくる。黒ずくめの衣装は要注意。暑さと寒さへの備え、汗や雨で濡れると低体温症が怖い。綿の下着はご法度、速乾性の下着、ゴアテックスなどの雨具が必須。手軽な防寒着を持参すること。日が短く山道はすぐに暗くなる。ヘッドランプは必携。低山は樹木で見通しが悪く、獣道や山菜取り、山仕事など枝道も多く、単独山行は特に道迷いによる遭難事故が多い。十分な注意を! —— 織田